

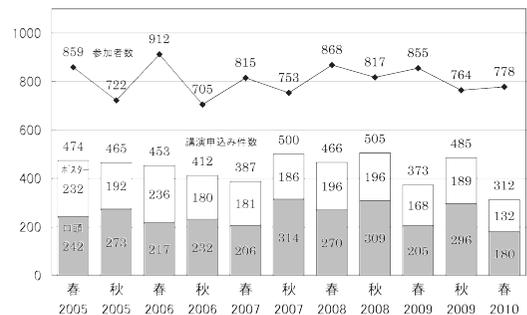
2010年度春季大会の報告

2010年度春季大会は、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）を会場として2010年5月23日（日）～26日（水）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は778名で、春季大会としては少なかった（第1図）。

2日目午後には、国立オリンピック記念青少年総合センター大ホールにおいて総会が開かれ、藤部文昭氏に日本気象学会賞が、岩坂泰信氏と近藤洋輝氏に藤原賞が授与された。総会に続いて受賞者による記念講演が行われた。3日目午後には、同会場において大会シンポジウム「災害軽減に向けたシビア現象予測の将来」が開催された。

今回は、ポスター及び口頭発表による一般講演と特定のテーマに基づいてコンペーターが編成する2件の専門分科会が行われた。一般講演の発表申込み件数は296件（内訳はポスターが132件、口頭発表が164件、口頭発表一件当たりの持ち時間は13分）、分科会は16件で計312件と、1996年秋季大会（305件）以降、最も少なかった。今大会の会期が地球惑星科学連合大会と完全に重なったことが、おそらく一因であろう。

会期中およびその前日には、教育と普及委員会・気象災害委員会主催による公開講演会「防災情報の活かし方を考える」、日本学術会議地球惑星科学委員会



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演申込み件数（口頭、ポスター）。

IAMAS 小委員会との共催による「大気科学の将来展望と若手研究者問題に関する第2回検討会」を含めて、個別のテーマによる8件の講演会や研究会が開かれた。

最後に、今大会では気象庁の皆様が大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂くとともにボランティアとして大会運営にご協力頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2010年6月 講演企画委員会